

令和3年度 日南市立鶴戸小中学校 自己評価及び学校関係者評価の報告

(4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない)

評価項目	評価指標	方策・手立て	自己評価	外部評価	外部評価者意見
【知】 確かな学力を身に付けさせます。	◎ 基礎・基本の定着と活用する力を習得させます。	・児童生徒が、わかる、できる授業実践のためのICT活用（タブレット）の研究 ・小学部高学年の教科担任制への取組 ・研修等による教師の指導力向上 ・思考力、判断力、表現力を図る授業実践 ・新聞を教材としたNIE活動の充実	3	4	・「個に応じた指導や支援」以外の「家庭学習」や「読書活動」についての中学部生徒や保護者の評価が低いのが気になります。分析をしっかりとする必要があります。 ・読書については、家庭での環境について、保護者に協力していただく手立てを考える必要を感じます。学校だけでは限界があります。 ・ICT活用の充実は、期待する効果も多大なものです。ただ、授業の中で、元氣よい挙手や飛び交う声も、お互い高め合う大事な要素と思えます。それぞれをうまく融合させる方を望みます。
	◎ 家庭学習の習慣化を図ります。	・基礎・基本の力を高める課題の工夫	3	3	
	◎ 個に応じた指導や支援を行います。	・児童生徒の学習内容の定着度に応じた指導の充実 ・困り感のある児童生徒への支援の充実	3	3	
	◎ 読書活動を積極的に推進します。	・朝の読書活動の充実 ・相愛リーディングでの読み聞かせ活動の充実 ・旅する読書、ピブリオバトルの推進	3	3	
【徳】 豊かな人間性を育てます。	◎ 道徳及び人権教育を充実させます。	・特別の教科道徳の授業内容の充実と授業実践の工夫 ・いのちの教育週間、人権週間の取組の実践	4	3	・コロナ禍で、行事の中止や縮小しながら実施するのは大変だったと思います。 ・教育相談については、児童生徒共に高い評価がされていて、先生方の子ども達への接し方がよいと感じます。全ての評価が4になるように、大変ですが努力してください。「一人も見逃さない！」 ・小中学生合同で行う活動等は、小中一貫校のメリットが期待される方策であり、推進を望みます。
	◎ 小中学生合同で行う活動等を計画的に行います。	・学校行事や児童生徒会での小中連携活動の充実 ・清掃活動の小中縦割りの実施と清掃の充実 ・ボランティア活動の推進	4	4	
	◎ キャリア教育の充実を図ります。	・将来を見通した小中一貫のキャリア教育の実施 ・職場体験学習等の体験学習の充実	3	3	
	◎ 教育相談体制の充実を努めます。	・児童生徒が相談しやすい環境づくり ・巡回指導員やS Wとの連携	3	3	
【体】 自主的な健康づくりと安全教育を実践します。	◎ 健康教育と食に関する指導を推進します。	・性教育等の充実 ・保健衛生面での指導の充実 ・給食指導の充実 ・弁当の日の実施 ・食習慣の実態調査と個別指導	4	3	・全項目高い評価で、子ども達の満足度がうかがえます。さらに高い評価になるよう努めます。 ・生き生きと元氣いっぱいの子ども達に、十分その効果は表れていると思います。
	◎ 健康に対する自己管理能力を高めます。	・体力向上プランの実践と個人目標の達成 ・基本的生活習慣の定着のための指導 ・運動に親しませるための指導内容や方法の工夫 ・業間や昼休みの外遊び等による基礎体力向上の取組	3	3	
	◎ 部活動の効率的な実施を継続します。	・適度な休養と効果的な活動の工夫	4	3	
	◎ 安全な学校にします。	・子どもを主体とする防災学習と諸訓練の工夫と充実 ・校内点検に基づく施設などの改善 ・危機管理マニュアルの徹底	4	4	
【地域】 地域や保護者とともにある学校づくりを行います。	◎ 地域や保護者に信頼され開かれた学校づくりを行います。	・コミュニティスクールの実践 ・学校だより等による情報発信 ・学校評価の実施と評価の公開	3	3	・地域の方々は、「子どもは地域の宝」という意識をもっておられます。コロナ禍で難しい面が多いですが、子どもとふれ合う行事等を進めてください。地域の方々は、協力・支援を惜しみません。 ・地域との関わりは、一部に限られ、十分とは言えません。情報の発信・共有について工夫をしながら、地域ぐるみの学校づくりを目指したいものです。
	◎ 各関係機関等との連携を図ります。	・市教委や警察等との連携による危険箇所の把握と改善 ・火災や不審者などでの連携した危機管理 ・民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動	4	4	
	◎ 地域の各団体等との交流活動を推進します。	・地域での体験活動や交流活動の充実 ・保育所や特別支援学校等の交流学習の充実	3	3	
	◎ 地域の教育力を積極的に取り入れます。	・児童生徒の活動支援ボランティアの導入のための環境整備 ・ふるさと学習等での地域の人材の活用	4	4	

1 本年度の取組について

基礎・基本の定着のため、それぞれの教職員が、ICTの活用を進めながら、思考力、判断力、表現力を図る授業実践となる授業改善に取り組んでいる。コロナ禍で様々な教育活動において制限があるが、小中学生合同で行う活動については、伝統を受け継ぎながら、様々な場面で充実が図られている。その中で、民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動をはじめ、地域の教育力を積極的に取り入れながら、地域や保護者と連携した学校づくりに努めている。危機管理においても、毎月の安全点検や各種の避難訓練など、危機対応への備えに努め、早期発見、未然防止をすることができているようにしている。

2 次年度への改善に向けて

今後とも、各授業における指導方法の改善に継続的に努め、家庭学習の習慣化のため、基礎・基本の力を高める課題の工夫に取り組んでいく。また、読書活動は充実してきているが、保護者の協力をもらうなど、一人一人の読書量が充実していく工夫をしていく。特に中学部では、委員会活動を通して読書の推進を図っていく。キャリア教育については、児童生徒の実態の変遷やコロナ禍での対応を考慮しながら、年間指導計画や年間行事の見直しをしていき、児童生徒に負担のない形で、地域の教育力を積極的に取り入れた活動にしていく。